

「鉛」に係る食品健康影響評価について



食品安全委員会は 2021 年 6 月 29 日に開催した、第 822 回食品安全委員会において「鉛」の評価結果を取りまとめました。これは、2008 年に、食品安全委員会が、「(1)自らの判断で行う食品健康影響評価」及び「(2)器具及び容器包装の改正並びに(3)清涼飲料水の規格基準の改正」にかかる食品健康影響評価として「鉛」について科学的な検証を行うこととしたものです。

今回のリスク評価の結論は以下の 3 つとなります。

- ① 知見の不確実性などから、現時点では、疫学研究データを用いて有害影響を及ぼさない血中鉛濃度を導き出すことは困難であると判断されました。
- ② 現在の我が国における平均的な血中鉛濃度は、1 $\mu\text{g}/\text{dL}$ 程度あるいはそれ以下であり、これは、疫学研究から小児の神経行動学的発達や成人の腎機能等になんらかの影響があると示唆される血中鉛濃度の 1~2 $\mu\text{g}/\text{dL}$ 程度と近いと考えられました。
- ③ そのため、今後も、鉛ばく露低減のための取り組みが必要であると考えられます。

今回の委員会の中では各基準値の改正等の具体的な話はなされませんでした。今後も鉛に関して活発な議論が行われることが予測されます。

当社では、鉛等の各種金属分析について長年の実績がございます。ご不明な点等ありましたら、是非一度ご相談ください。

資料 [2021年6月29日付 食品安全委員会](#)

分析技術箇所 野村咲子